

都市情報システム貢献賞受賞・事例研究

——平成4年度・都市情報システム貢献賞（団体）・受賞システムの紹介——

マルチメディアを使った郷土資料館展示システム

——文京ふるさと歴史館の試み——

前東京都文京ふるさと歴史館館長 下條 純子

文京区は、平成3年4月13日に新設の郷土資料館を開館した。

文京区の歴史は、弥生時代の命名があるように古い時代から、江戸時代は武家・大名のベッドタウンとして栄え、近代になっては、藩校があったことが機縁となって東京大学、お茶の水大学など教育発祥の地となり、さらに、坪内逍遙、森鷗外始めとするほとんどの近代文学者が往来し、近代文学の発祥の地となるなど豊富な歴史がある。しかし、その歴史的文化財は、震災・戦災でほとんどが滅失している。さらに加えて、近年の激しい地域開発で歴史を忍ぶ街の景観も減少している。

文京区のこうした歴史を区民に普及し、郷土にたいする深い愛着を育むことを目的に、「区民がいつでも好きなときに興味のままに、文京区の歴史に触れることのできる、資料館建設」を基本テーマに設計された。

その手段の1つとしてとりあげたのがマッキントッシュとマルチメディアを利用したシステムである。

このことは、1990年に文部省の社会教育審議会から出された報告書で提唱されている参加型の博物館を実現させることになると考えている。

1. システムの全体構想

「文京ふるさと歴史館」のコンピュータシステ

ムは、大きく2種類のソフトウェアが開発された。

(1) 展示ソフトウェア

『文京歴史探検室』と『文京文学館』の2つがある。これらは、利用者が楽しみながら気軽に学習することができるシステムとしてハイパーカードをベースに開発している。

『文京歴史探検室』は、文京区教育委員会で発行している文化財書籍6冊を基礎に、地図上から史跡・坂道・著名人の住居跡といった情報をコンピュータディスプレイ上見易いように再編集し、1枚のグラフィックスをレイアウトし、1枚の画面で1つの情報を提供していくものである。また、「文京クイズ」や「歴史館スペシャル」と呼ばれる機能も含んでいる。

『文京文学館』は、文京区教育委員会制作の16ミリ映画「文京ゆかりの文人たち」をレーザーディスクに収め、ソフトと組み合わせ、森鷗外をめぐる文人たちを文字・絵・動画・音声で紹介していくもので、昭和63年度に文部省補助金を得て日本視聴覚協会が開発したものである。ハイパーカードを使用したのは、マルチメディアのプラットフォームとして実績があり、情報カードの集合体を複数扱うことができるだけでなく、情報カード間のリンクが縦横無尽に行うことができ、文字・グラフィック・アニメーション・音声を自由に扱うことができる、安定したハイパーメディアとして

普及していたからである。

(2) 文化財データベース

『文京文化財検索』で文京区の有形・無形文化財に関する情報を管理し、利用者に提供するシステムである。

データベースは、4th Dimension をベースに考えている。文化財情報は、種類、形態が多岐にわたり、情報量も膨大になるので、展示ソフトウェアとは、コンセプトを異にし、リレイショナルデータベースで専用化されたデータベースのソフトウェアを開発した。

基本台帳という名のマスターファイルが中心のデータベースである。ここでは文化財の必要項目について共通項をとりだし、最小限のデータベースを構築した。さらに、基本台帳の項目からはみだした部分については、個別台帳というサブファイルを作り、基本台帳とリレートすることで対応している。個別台帳は、個別化された特殊情報を管理することができる。また、GUI を多用することで、操作性を向上させた。そのため利用者は、展示ソフトと同様に単純な操作で検索できるようになった。

(3) 操作は簡単に

高齢者は、まだまだコンピュータを敬遠しがちである。コンピュータという感触をやわらげるためキーボードを隠し、トラックボールを撫で、デ

ィスプレイ上のボタンを押すだけで自分の知りたい情報に行きつける方法をとった。

(4) 成長するデータベース

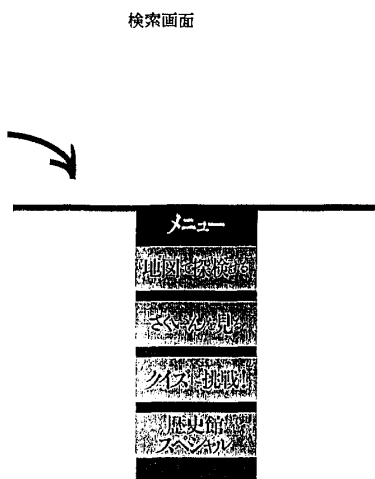
データ入力は、原稿を用意せずにディスプレイに向かい、ほとんどマウスを操作するだけで入力できる。情報量が膨大になりコンピュータシステムの変更の必要が出て、元の機能を壊すことがないように、標準的なデータベースとして設計されている。システムは、オープンであり、拡張し、貯蓄された情報は、将来に確実に継承できることに重きを置いた。

2. 各ソフトウェアの内容

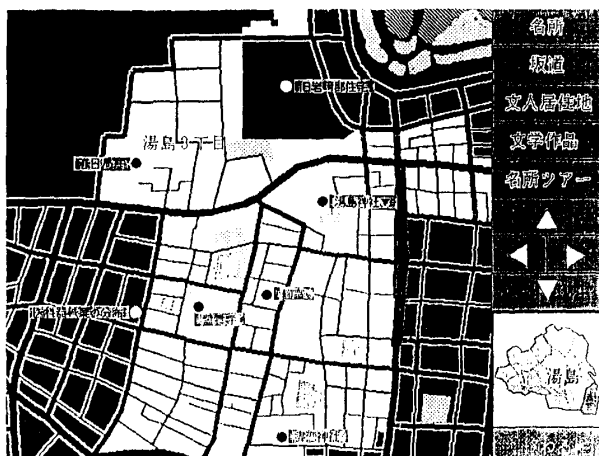
(1) 文京歴史探検室

メニューは、「地図で探検する」「さくいんを見る」「文京クイズ」「歴史館スペシャル」からなっている。利用者が興味のままに好きな場所からトラックボールで検索していく。史跡・神社・寺・街の歴史・町名の由来・坂道・川・街道・文化財・著名人・文人の住居跡、肖像、作品、年譜・舞台となった文学作品・伝説といった事柄を調べることができる。調べる目的がはっきりしている場合は、「さくいんを見る」から調べる。

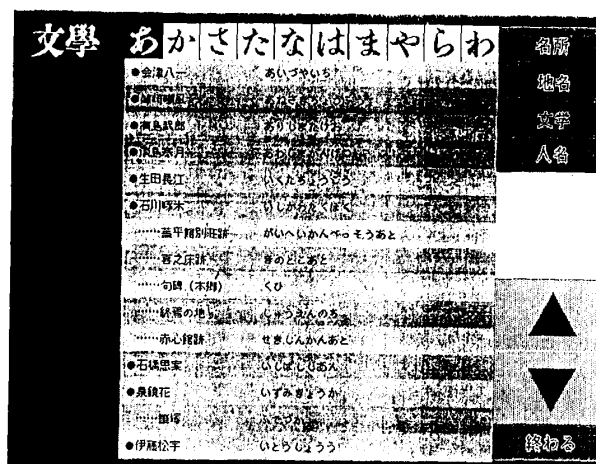
「文京クイズ」は、特に児童対象に初級・中級・上級の問題を混在させて設定してある。問題は5問設定し、週交替りで職員が追加登録したり、既



▼地図で検索する



▼さくいんを見る



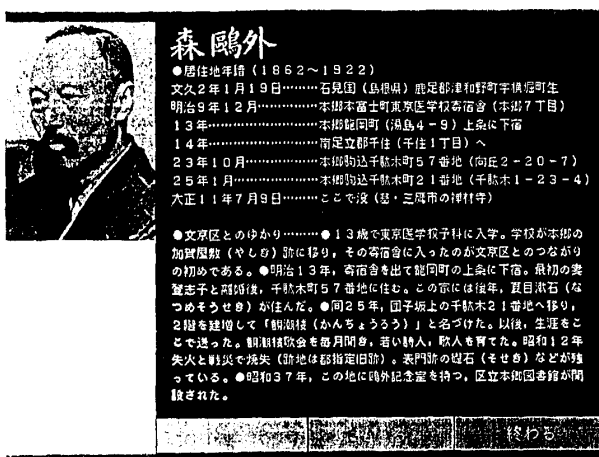
▼名所を見る



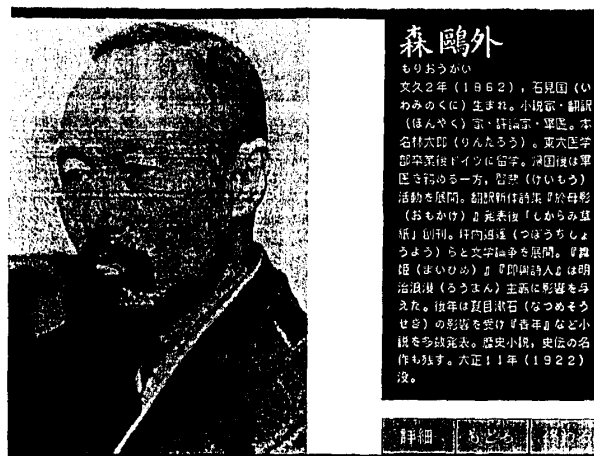
▼坂道を見る

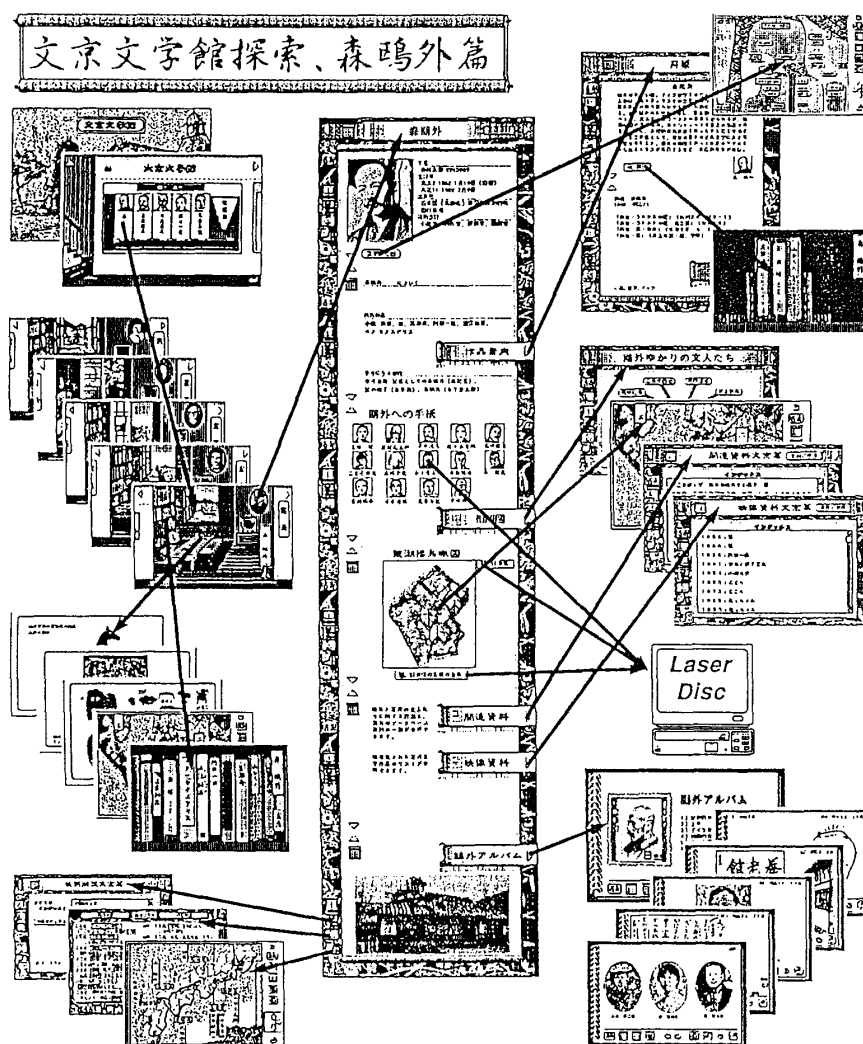


▼文人を見る



文人詳細を見る





存の問題の中から選択するようになっている。

「歴史館スペシャル」は、ハイパーカードが持つ基本的機能を使って、安易に展示内容を追加する機能である。

(2) 文京文学館

クリックすると「文京文学館」の案内板の前にでる。そこは、長い廊下になっていて森鷗外・夏目漱石・坪内逍遙・樋口一葉・北原白秋といった文人の書斎があり、その奥に映像館があり、映画を見ることができる。

書斎の中にあるものをクリックすることにより、その作家に関連した情報を文字・肖像・作品の朗読・動画などを見ることができる。年表や地図も見ることができ、地図はスクロールしたり、ズームアップやズームインができる。

(3) 文京文化財検索

システムは、「職員」「歴史館倶楽部」「一般利用者」からなっており、データベースは、「基本台帳」と「個別台帳」である。テキスト入力のほかに、画像や動画の入力もできる。別に、「歴史館倶楽部」の会員用のフォーマットが用意されており、会員はそこに入力する。入力されたデータは、点検した後、データベースに入力するシステムになっている。歴史館倶楽部会員と一般利用者にはパスワードを使用し、検索を制限している。「文京歴史探検室」に比べれば文字数も多く、文章も堅いが、一般利用者の検索画面は見やすくレイアウトされている。「歴史館倶楽部」の会員は、個人情報を除いた「基本台帳」と「個別台帳」のデータを見ることができる。

ア 基本台帳

文化財基本台帳ブルーリスト

種類	10602 石造物		
登録番号	10602-00073	受入番号	91-00841-0000
処理区分	2 更新	処理年月日	91.03.31
点数	1		
名称	奇縁氷人石		
一括資料名	石造物		
所有者	しない		
所在地	13 湯島地区		
住所表示	しない		
住所	文京区湯島3-30-1		
連絡先			
実物・模造区分	0		
時代	13 江戸	から	13 江戸
種別	1 有形文化財		
収蔵場所			
写真番号			
画像名	SYS02.BIG.ATOHOT.KIENHOT		
受入方法	9 その他	購入金額	その他
商品番号			
旧所有者			
旧住所			
旧連絡先			
受入年月日	00.00.00		
借入期間	00.00.00	から	00.00.00
指定文化財	3 区	指定年月日	85.11.01
受入借入担当	担当記入者		

概要

奇縁氷人石は、高さ約15メートルの石柱で、右側面に「たずぬるかた」左に「をしふるかた」と刻まれている。この由来は「東都遊覧年中行事」にいわしい。すなわち、迷い子を探す者がそのむねを紙に書いて貼り、それを知る者はまたそのむねを書いてはった。氷人とは、人を媒介する謂である。

この石を別に「迷子さがし石」とよぶのはそのためである。これに類する石は、京都にも見うけられ、迷子さがしと同時に縁結びもする場所として考えられていたことがわかっている。

江戸時代は、湯島神社をはじめ、6カ所存在していたが、現在は、ここと浅草寺内と菊屋橋の3カ所のみとなっている。

いずれも、人通りの多い場所であり、とくに橋のたもとという境界性の強い地点、神社境内という聖域に属した地点で、民俗学上場所性が明確であり都市民俗を研究する上で重要な資料であるし、また、既に失われている当時の庶民生活の習俗を語りつぐうえで貴重な民俗文化財である。

備考

概要2

湯島神社の「奇縁氷人石」は東京の「迷子しるべ石」としては最古のものであり、全国的に見ても興味深い習俗を口碑として述べているので十分保存の処置を講ずべきである。

「文京ふるさと歴史館」

イ 個別台帳

イ. 個別台帳内容

1991年4月28日 日曜日

受入番号	91-00042-0000			処理区分	2 更新	
基本台帳の内容	名称	紙本墨画着色・春日局像 1幅				
	一括資料名	願祥院				
	点数	1				
	所有者					
	所在地	湯島地区				
	時代	江戸				
	種類	絵画				
学術調査	0	収蔵場所				
調査期間	00.00.00	から	00.00.00	まで	報告年次	0
調査担当者						
画像名						
記入者氏名						
記入年月日	91.03.25					

調査内容

春日局像
 横画
 1
 1976
 1976
 水野敏三郎
 下駄子
 紙本墨画着色 掛幅 一軸
 型七〇・八cm×横三四・八cm
 (付箋)
 外箱 木製墨漆塗、蓋表朱書「開基大持身像天運山」
 内箱 木製、蓋表墨書「願祥院殿肖像 模範法印守信」
 (表装)
 外装 雲雁草文唐子 泥書字金糸綴
 裏装 中国 菊花文絹
 一文字 蘭唐草金
 軸 墨洋金木軸
 (落款・印書)
 画面右下墨書「探検幽斎筆」印(「守信」朱文 院

調査内容

春日局(1579 天正七年—1643 寛永二〇年)は奇縁利三女で、頼朝佐守正成に嫁し、三子をもうける。一六〇四(慶長九)年東光誕生し、その乳母となる。東光が将軍職につくと大奥に於ける有力者となる。一六二八(寛永五)年後水尾天皇譲り任の意ありて春日日上洛天参内するが、この時縁持を許されている。画像はこの縁持を置いた姿を描いたものか。一六四三(寛永二〇)年に没し東光の命により願祥院に埋葬された。

当画像については「部名所図説」巻五「天運山願祥院」裏に記すところがある。即ちその「影堂」の項に

本堂の左にあり、二位局の模範を置く。この像は台命によって狩野探検幽斎の生計録を筆せし姿を目のあたりに写せし像なり。我孫も大将軍命せらる。所にして唐草の唐子に泥書

「文京ふるさと歴史館」

ウ 一般利用者画面

ファイル 編集

データ検索 時代の名称を押してください。

時代 古墳時代のもの

旧石器 弥生 飛鳥 平安 南北朝 江戸 平成
縄文 古墳 奈良 鎌倉 室町 戦国 大正
安土・桃山 明治 昭和

OKを押すと条件が設定されます。 ☒ OK 指定しない ☐ 取消し

ファイル 編集

データ検索 検索したい項目を押してください。

時代 時代別の検索です。いつの時代の物かがわかっているときにはここを押してください。

所在地 場所による検索です。探したいものがどこにあるのかわかっているときにはここを押してください。

名称 名称による検索です。その物の名称がわかっているときにはその最初の文字で探することができます。

種類 種類による検索です。探したいものがどんなものであるかによって検索を行なうことができます。

指定文化財 指定文化財の種類によって検索できます。国、都、区、のどれが指定したかを設定します。

スタート画面

ファイル 編集

データ検索 検索する地区を選んでください。

所在地 湯島地区にあるもの

後楽	水道	音羽	弥生
春日	小日向	本郷	根津
小石川	大塚	湯島	千駄木
白山	関口	西片	本駒込
千石	目白	向丘	文京区外

OKを押すと条件が設定されます。 ☒ OK 指定しない ☐ 取消し

ファイル 編集

データ検索 スクロールリストから項目を選んでください。

種類 神社

見出し

あ	は
か	ま
さ	や
た	ら
な	わ

信仰関係の服装
震災の記録
神事用具
人生儀礼／その他
神体
神札
炊事用具
水道
頭巾
ストーブ
生活関係遺跡

OKを押すと条件が設定されます。 ☒ OK 指定しない ☐ 取消し

ファイル 編集

データ検索 最初の一文字を選んでください。

名称 「ゆ」で始まる言葉

わ	ら	や	ま	は	な	た	さ	か	あ
	り		み	ひ	に	ち	し	き	い
	る	ゆ	む	ふ	ぬ	つ	す	く	う
	れ		め	へ	ね	て	せ	け	え
を	ろ	よ	も	ほ	の	と	そ	こ	お

OKを押すと条件が設定されます。 ☒ OK 指定しない ☐ 取消し

都市情報システム貢献賞受賞・事例研究——マルチメディアを使った郷土資料館展示システム

説明画面

ファイル 編集

文京ふるさと歴史館

時代	所在地	湯島地区	印刷	戻る
名称(ふりがな)		湯島神社		
名称		湯島神社		
一階堂名		神社		
種類		神社		
所有者				
住所				
指定文化財	登録番号	10101-00010		
00.00.00				

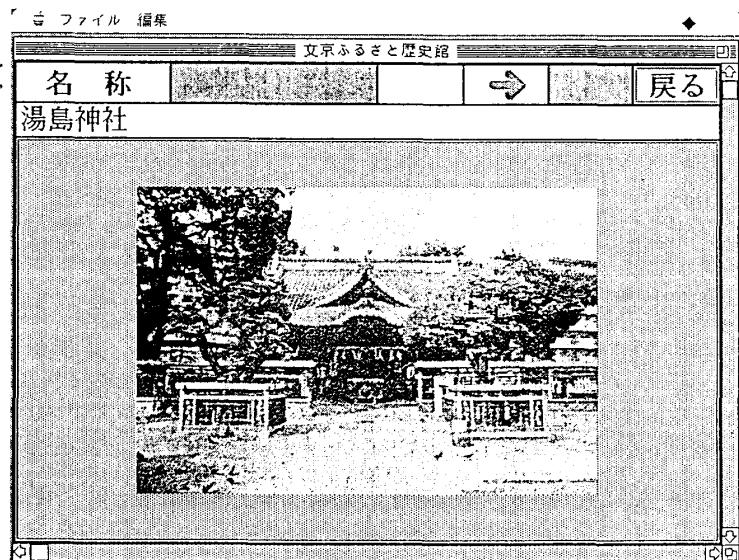
説 明

湯島天神(ゆしまてんじん)

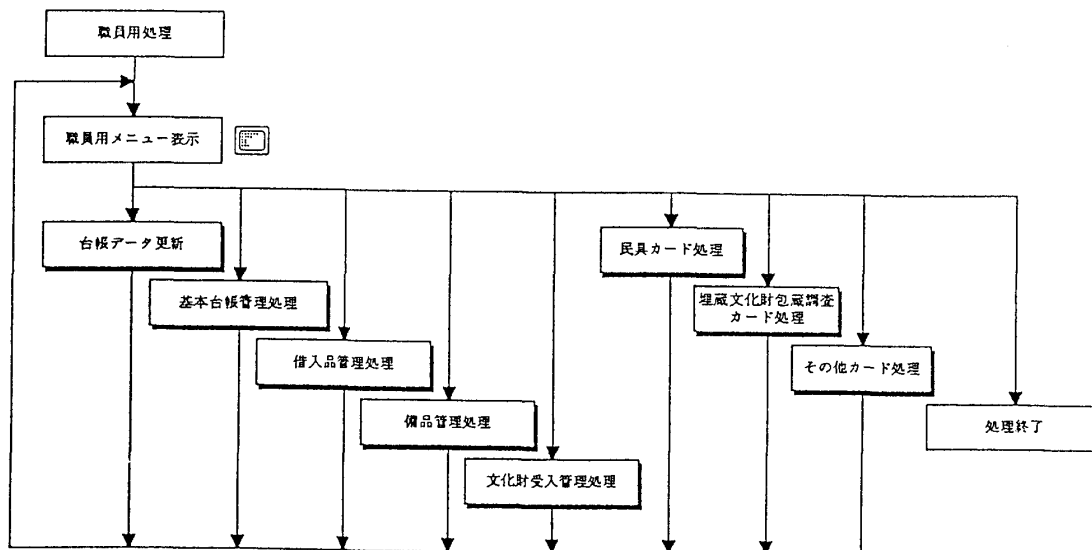
由緒 湯島神社は鎌倉天皇の勅命により、御宇2年(458)11月創建と伝えられ、天之手力降命を奉斎したのがはじまりで、嗣って正平10年(1355)2月郷民が普公の御像を奉い、文治の太神と崇め本社に勧請しあわせて奉祀し、文明10年(1478)10月大田道灌これを再建し、天正18年(1590)徳川家康公が江戸城に入るにおよび、特に当社を崇敬することゝせしめ、翌19年11月豊島郡湯島の内五石の朱印地を寄進し、もって祭記の目にあて、森平永き世が経き、文政大いに死うようと普公の遺像を拜するたのである。その後、字音・文人の各拜もた入ることなく経き、林道春・松永尺五・松吉庵・南亮堂・新井白石などの名がみえる。村家徳川園吉が湯島聖堂を昌平坂に移すにおよび、この地を久しく文教の中心としていよいよ湯島天神宮を崇敬したのである。また、湯島の富くじは、江戸でも谷中の天王寺、目黒不動とともに、早くから参詣公認として奉え、江戸三窟として知られた。明治になっては、縁起花の『神承回』の舞台として演劇に寄進曲に『湯島の白梅』の名を冠からしめた。

祭典 例大祭 5月25日 梅番祭 2月25日

祭神 天之手力降命(あめのたぢからのおのみこと) 普願道真公(すがわらみちざねこう)



エ 職員用メニュー



検索画面



(4) 文京アルバム——あなたの写真館——

開館1年後、追加ソフトとして「写真検索システム」を開発し、「歴史館スペシャル」のメニューとして導入した。文京区の歴史を写真で構成するもので、区民に広報で呼びかけ、提供された古い写真115枚を基礎に開発した。

メニューは、「ジャンルメニュー」「年代メニュー」「地域メニュー」からなっており、各々詳細メニューが用意されている。メニューをクリックすると1画面12枚の写真索引メニューになる。目的の画面を検索すると写真・解説・提供者氏名が出、写真の好きな部分を拡大して見ることができる。写真の拡大についてはかなり努力を要したが、アクセスタイムもさほどかからず満足いくていどで開発することができた。

利用者に開放後は、写真提供者も増え、文京ふるさと歴史館運営のコンセプトである、「利用者の参加と共に発展させる歴史館システム」の実践が開始された。

(5) 文京切絵図

「歴史館スペシャル」メニューの第2作として、開館2年後「文京切絵図」を開発した。データベースは切絵図のうち文京区に関係ある、『小石川谷中本郷絵図』『雑司が谷音羽絵図』『東都小石川絵図』『東都駒込辺り絵図』をデジタルデータとして

登録し、この切絵図と現在の地図とを重ね合わせて、江戸時代と現代とを自由に飛び回れるシステムとし、「文京歴史探検室」のデータとリンクさせた。利用者はコンピュータを操作しながら江戸時代にタイムトリップをし、文京の歴史に触れることができる。

3. ハードウェアシステム

(1) マッキントッシュ

32ビットパソコンであり、フルカラー（1677万色）の表示、大容量の記憶装置とネットワークの対応など、パソコンの枠を越えた機種を使用した。

(2) ネットワーク・ファイルサーバー

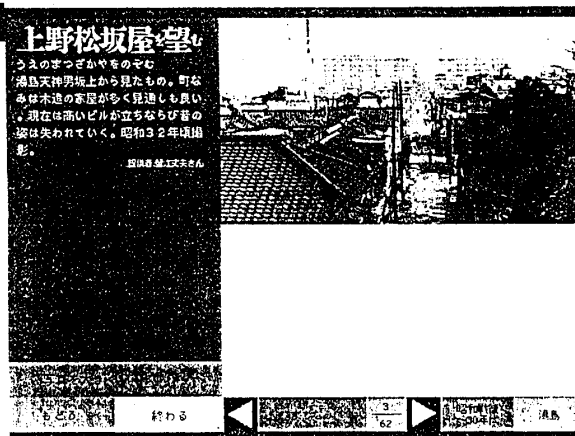
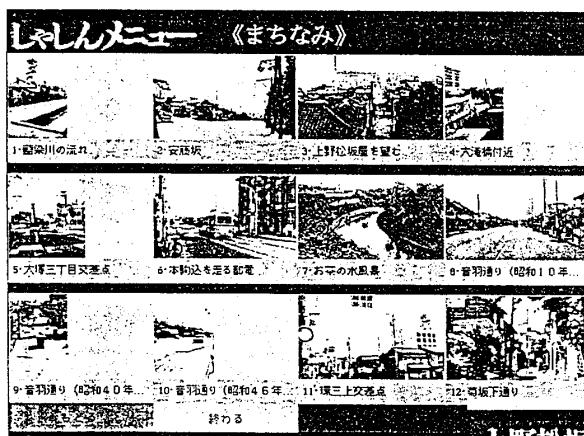
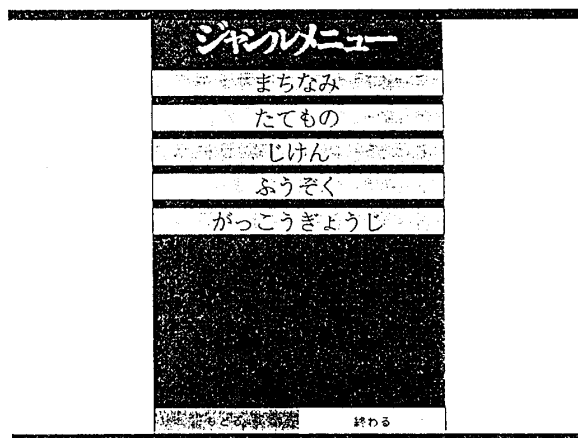
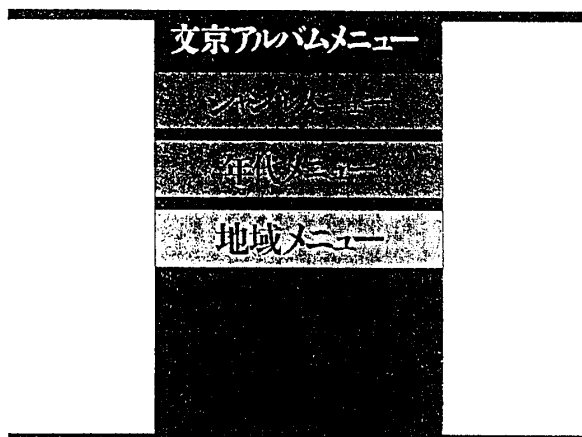
マルチメディアを展開するには、必然的にデータの量が膨大なものになってしまう。そのため、大量の記憶装置であるハードディスクを各々のパソコンに接続して使うことは、経費がかさむ。また、分散化されたシステムの保守は困難である。そこで情報を一元化し、集中管理するためにネットワークを敷設してファイルサーバーを設置する。このことでどのパソコンからも必要な情報を引き出すことが可能となり、位置的な制限なしにどの場所のパソコンからでも展示ソフトウェア、文化財ソフトウェアのすべての作業が可能になる。また、分散されたシステムの構築ができたことになる。

ネットワーク・ファイルサーバーには、米国で専用化された高機能スーパーサーバーを起用した。日本国内では初めてと思われる。

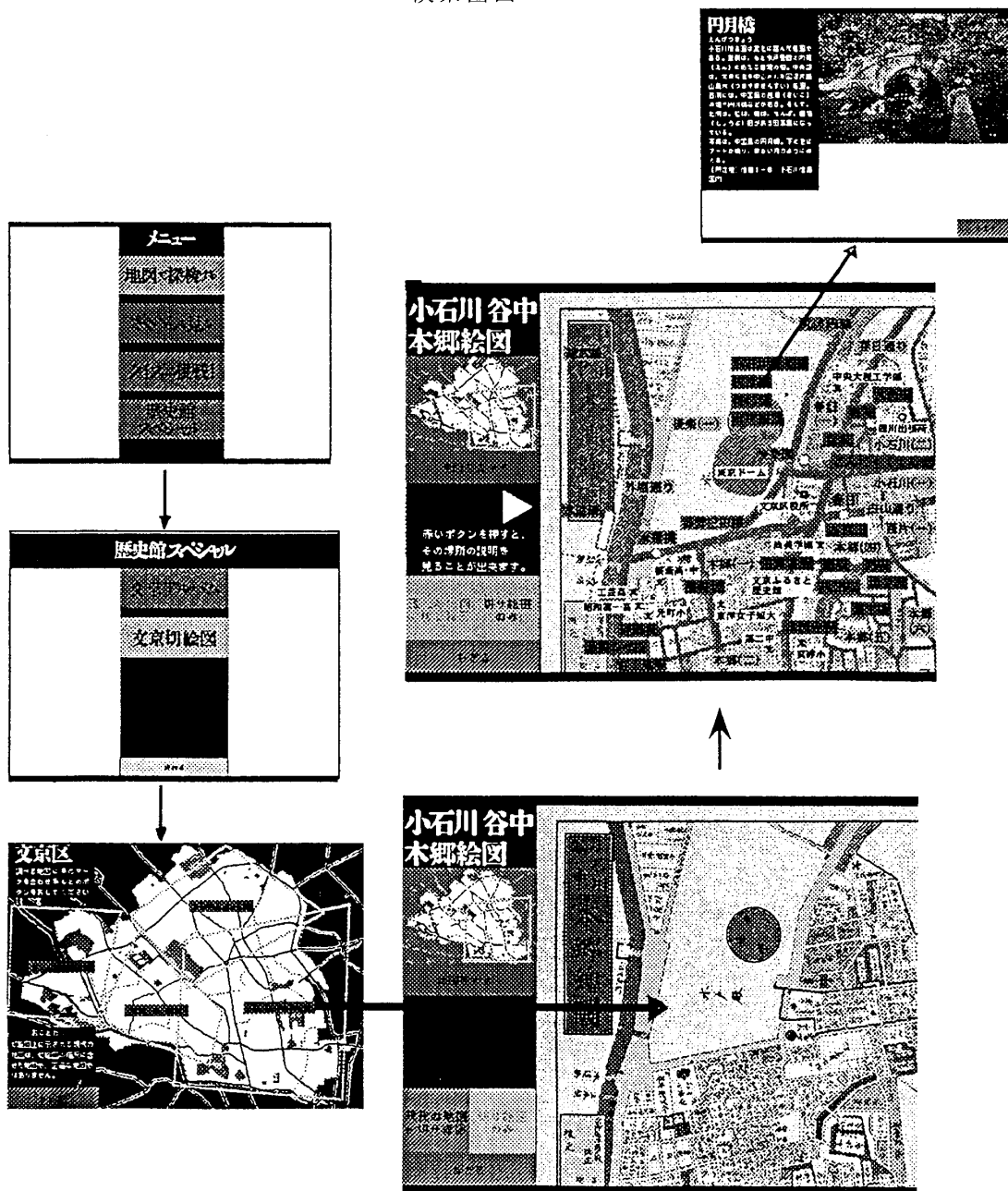
OSは、ネットウェア386を使い、大容量のデータを高速に移動できる高速バス（BUS）を基本に、複数のI/Oプロセッサを追加することで、全体のパフォーマンスを向上させる可能性を大にした。

ディスクミラーリング等のフォールトトレランスを完備し、自己診断機能が内蔵され、音声合成によって故障診断ができる。

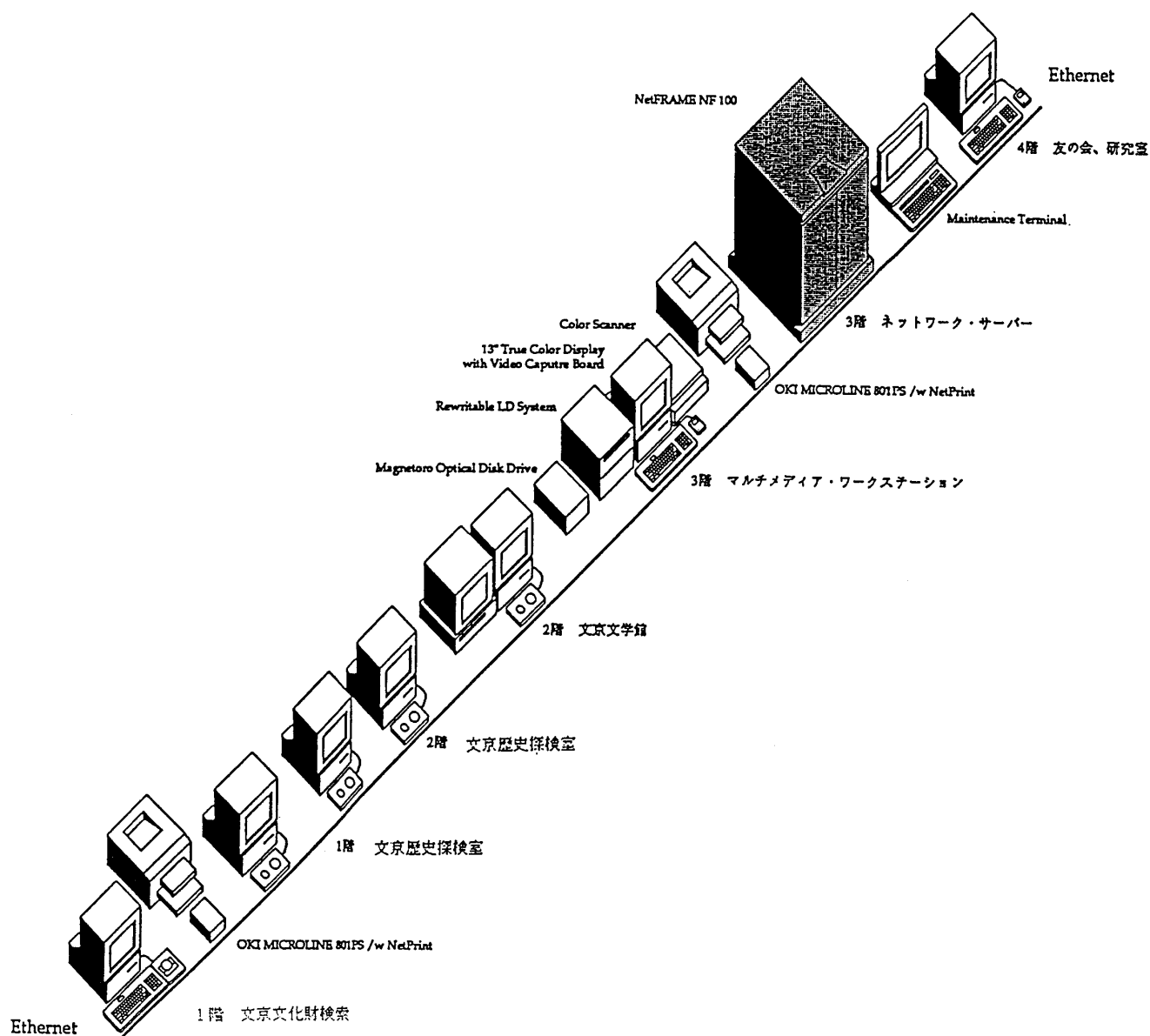
都市情報システム貢献賞受賞・事例研究——マルチメディアを使った郷土資料館展示システム



検索画面



(3) 文京ふるさと歴史館ネットワークシステム



4. 地域の教育現場とのネットワーク

「文京ふるさと歴史館」は郷土資料館であり、社会教育施設の1つである。学校教育の現場と歴史館とが連携をし、課外事業・学習課題に即した展覧会・講演会・体験学習などを実施しているところである。近年は、学校においてもコンピュータ教育が活発になってきている。将来的には、歴史館の持っているコンピュータ情報を教育の現場で利用して授業したり、児童・生徒が制作した郷土に関するデータを、歴史館の利用者に提供するという活動が必要とされるであろう。

幸い、現在区内にある「お茶の水女子大学付属中学校」が歴史館と同機種を使用してコンピュ

ータ教育をしている。今回、中学校から歴史館の画像データベースをアクセスし、授業に使用するという実験を試みた。実験の結果は、公衆電話回線を使用しての送信であったため、画像取り込みに時間がかかり実用には無理があったが、学校教育と社会教育との具体的な連携を図るものとして、早期の実現が期待される。

使用機器

使用ハード	文京ふるさと歴史館	お茶の水女子大学付属中学校
コンピュータ	Macintosh II ci	Macintosh II cx
モ デ ム	Trail Blazer T2000	Trail Blazer T2000
ソフトウェア	Fallralon 社 Mainstay 社	Tinbuktú/Remote Captuer
使 用 回 線	公衆電話回線	